

基礎プログラミングを学んだことによって、今後の人生にどのような影響を与えるか。まず思いつくのは、物事の考え方への影響だ。特に、状況がうまく進行しないときに対して、対応する場合の思考形態に良い影響を与えていると考えている。

プログラムを実行してもうまく動かない理由は、主に大きく二つに分けることが出来る。一つは、表現する目的に対して、用いる表現方法を間違えている場合。もう一つは、表現方法自体に間違いが存在している場合。

うまく動かなかった場合、その結果を見る。表示された結果に失敗の原因が表示されている。それを読み取っていくのだ。

これは人間関係にも対応していると思う。しかし、人生とプログラミングは同じものではない。しかし、プログラミングとは、人生よりもはっきりとしていて、人生よりも理解しやすい。形となっているため、なぜうまくいかなかったのかは、明確に表されている。それに気付くか気付かないか、ただそれだけなのだ。

人生とは曖昧なものだ、という指摘を、間違っただけだとは思わない。

しかし、その理屈を以って厭世的に生きることは、間違っていると断言できる。プログラミングの解法で人生の全てを網羅できるとは思わないが、一つのやり方として取り入れることは出来る。

結局のところ、「答えは必ずあるのだ」と思えるようになることが重要なのだと思う。投げ出さない、放棄しないという姿勢で物事に臨むことへの大切さを知ることだ。怠惰であることを、自分の名のものに自分で許可することができる世の中である。意にそわないことをしなければならない場合の抵抗感は、かなりのものだ。しかし、食べたいもののみを口にし、飽食を続けたとして、それで良いのだろうか。「これで幸せなんだ」と言い続け、しかしある日そんな自分を見詰めたとき、どう思うのか。

他者とのリンクに障害を持つことは、大きな損失でしかない。

人との接し方は、技術的に確立することで円滑なものとなるだろう。人づきあいにおいて、最も大事なものは理性だ。

何事も才能がなければできない、などと思っている人が目立つが、そういったことは稀である。日々行なっている、「このくらい面倒だからいいか」とせずに、研鑽すること。「何事もやればできる」とは、こういうときに使うと無理が出ない。

現代の人間の、最も改善すべきと考えている、物事への接し方と考え方。

つまり「怠惰」である。

これを持つものとして、なかなか刺激になったと考えている。